

防衛産業展示会から見る韓国防衛産業の現在

——韓国防衛産業展示会報告

理論研究部 社会・経済研究室 研究員 清岡 克吉

執筆者は、2024 年 9 月 26 日から同年 10 月 4 日にかけて、韓国で行われた陸軍種を中心とした防衛産業展示会 2 件(DX-KOREA および KADEX)の調査研究を主たる目的とした出張を行った。本コメンタリーでは、今回の出張で得られた韓国の防衛産業展示会の模様や、防衛産業のトレンドや個々の 이슈を中心に紹介したい。また、本稿は、防衛産業展示会というイベントにあまり馴染みのない読者を広く想定し、最初に①防衛産業展示会とは何か、その意義は何かについて確認し、そののちに②韓国の防衛産業展示会の概要について概観し、③そこから見えた韓国の防衛産業を取り巻くトレンドについて紹介する。韓国防衛産業展示会の報告については 3 ページ目の第 2 項まで読み飛ばされたい。

(※本稿は、あくまで防衛産業展示会から見るトレンドを紹介するものであり、必要に応じて個々の企業への言及を行うものの、それらの企業利益を代表するものではない。また、本コメンタリーは一切の商業活動への助言を企図するものではなくその責を負わない)

1. はじめに一防衛産業展示会とその意義

今回、執筆者は韓国で行われた「防衛産業展示会」の現地での調査研究を行った。その詳細について紹介する前に、そもそもではあるが「防衛産業展示会」とは何か、またその意義について確認しておきたい。

近年、わが国においても「DSEI-Japan¹」や「RISCON/SEECAT²」をはじめとした防衛産業等に携わる企業が数多く出展する展示会が少なからず開催されている。また、諸外国においても本稿で取り上げる韓国をはじめ、英国や仏国、米国など幅広い国で同様の展示会の開催がみられる。直近では、2024 年 6 月に仏国で行われた欧州最大級の展示会である「ユーロ・サトリ³」がその代表例である。平たく言ってしまうと、「東京モーターショー」などの展示会の防衛産業版という表現がわかりやすいかもしれない。

「防衛産業展示会」そのものに、確定した定義や形式があるわけではない。例えば、世界の防衛産業展示会をまとめるサイトを見ても、そのイベントの幅は、陸・海・空の各ドメインに特化したものから、電磁波やサイバー分野に特化したもの、さらには個人用銃器や刃物に特化したもの、それらをすべて総合

したものなど、多岐にわたるイベントが掲載されている⁴。また、それらの中には、米陸軍協会主催の AUSA 年次総会および博覧会⁵などの、軍関連の団体の会議やシンポジウムに併設されるものや、フーンボロ航空ショー⁶のように大規模な航空機の飛行展示が催されるイベント等もある。このように多様なイベントの在り方があるものの、本稿での「防衛産業展示会」の定義としては、「防衛産業企業が多数出展するイベントのうち、オーディエンスおよび出展者の対象を国際的に設定しており、国家の軍事組織をその主たる顧客として構えるイベント」というものとしたい。

次に、防衛産業展示会の意義について簡潔に整理したい。まず、「出展者側」にとって、防衛産業展示会は商談の場としての重要な役割を果たしている。「IDEX（国際防衛展示会および会議：アラブ首長国連邦）⁷」や「Seoul ADEX（ソウル航空宇宙・防衛産業展示会）⁸」などの大規模な展示会では、実施報告書に成立した商談の件数や契約金額が明記される場合もある。また、必ずしも商談や契約締結を直接の目的としない場合であっても、各企業にとって、自社製品群のコンセプトや、どのような戦術的優位性を防衛産業の唯一の「顧客」である国防当局に提供できるかを示す貴重な場となる。たとえば、【写真 1】に示すように、出展企業が売り込み対象の軍隊の「戦術思想」や「ドクトリン」を戦略・政策文書や関係者からの聞き取りを通じて分析し、自社製品の付加価値を提案する姿勢がその展示方法からもうかがえる。

さらに、防衛産業展示会は、国家調達市場への参入を目指す企業にとって重要な足掛かりとなりうる。国家調達契約は一般に契約金額が非常に大きい一方で、いずれの国でも参入障壁が高く、既存の主要防衛メーカー（プライムメーカー）以外が新規参入することは困難とされる。しかし、防衛産業展示会には開催国および諸外国の軍高官が多数来場するため、新規参入企業にとっては潜在的な契約先と直接接合できる貴重な機会となる。たとえば、執筆者が今回調査した韓国の防衛産業展示会には、このような動機で参加する非伝統的な防衛技術関連企業が多数出展していたことが確認できた。

一方で、防衛産業展示会は「観覧者側」にとっても多くの示唆を提供する。第一に、その国の防衛装備トレンドを把握できる点が挙げられる。防衛産業展示会には各企業が注力する製品が集中的に出展されるため、会場を一巡することで、その国が現在どのような技術や装備に注目しているか、あるいは注目すべき必要があるかを比較的容易に把握することができる。これは各国の政策や戦略文書を通じて把握するよりも、視覚的かつ直感的に技術の最前線を捉える手段として有効である。また、展示会では基本的に最新の技術や装備が紹介されるため、参加者にとって技術革新の動向を理解する有益な機会となる。

第二に、展示会では製品や技術を直接確認できる点も重要である。多くの場合、企業の説明員が配置されており、展示された製品や技術に関する詳細な情報を直接得ることが可能である。これにより、カタログやウェブサイトを通じた情報では得られない、製品の運用性や適用可能性に関する具体的な知見を得ることができる。多くの場合、諸外国での防衛産業展示会には英語に堪能な説明員が配置されており、コミュニケーションが比較的容易であるほか、今回参加した韓国の KADDEX では、日本語に精通した説明員も散見された⁹【写真 2】。



【写真 1】たたかい方のコンセプトをベースとした展示
(KADEX2024 における KAI の展示ブース)



【写真 2】展示場と説明員の様子
(KADEX2024 における LIG の展示ブース)

(執筆者撮影。なお、本稿で使用される写真は特に断りのない限り撮影は執筆者による。)

2. DX-KOREA および KADEX の概要

今次の調査研究では、韓国の陸軍種を中心とした防衛産業展示会である、「DX-KOREA」と「KADEX」を訪問した。個々のトレンドを紹介する前に、まずこれらのイベントの概要を紹介したい。

① DX KOREA

DX KOREA (Defense Expo Korea) は、韓国防衛産業協会 (KDIA) と韓国陸軍協会 (AROKA) が共同で主催する防衛産業展示会である。この展示会は、韓国の防衛産業製品と技術を国際市場に紹介し、輸出促進と国際協力を強化することを目的に開催されている¹⁰。DX KOREA は 2014 年に初めて開催され、以降隔年 (偶数年) で開催されてきた。最新の DX KOREA 2024 は、2024 年 9 月 25 日から 28 日まで、ソウル市の西に隣接する京畿道高陽市の国際展示場である「KINTEX」で開催された。DX KOREA 2024 には、韓国国内から約 150 社と、アメリカ、ルーマニア、ベトナムなどの 15 カ国から 28 社の多岐にわたる防衛関連メーカーが出展し、最新の防衛技術と製品の展示が行われた¹¹。

本展示会では、地上装備品を中心に、情報通信、無人システム、セキュリティ機器など多岐にわたる分野の製品と技術の出展が見られた。DX KOREA は、各国の防衛関係者や企業とのビジネスマッチングの場としても機能していたほか、防衛技術や装備動向に関するセミナーも開催されていた (韓国語のみでの開催)。報道によると、韓国企業と韓国外のバイヤー間で 140 回余りの商談が行われ、商談成約額は合計 1 億 2000 万米ドルに及んだとされる¹²。

本展示会が開催された KINTEX は市を跨ぐもののソウル郊外の、公営の中距離バスで 1 時間弱の場所にあり、幕張メッセ (千葉) やインテックス大阪 (大阪) に非常によく似た雰囲気であった。会場の受付には英語での対応が可能なスタッフが配置され、当日の入場受付も対応していた。



【写真 3】DX KOREA 会場の様子

詳しくは後述するが、主催団体と AROKA の間で後援・公認をめぐる軋轢があり、本展示会には、現代ロテムやハンファなどの韓国国内のプライムメーカーが参加しないという異例の展示会となった¹³。海外メーカーの出展もプライムメーカーレベルでは少なく、「スイッチブレード」などの徘徊弾薬や無人航空機を製造する米国企業である AeroVironment 社や、イスラエルの Orbit Communication Systems などが見られたが、AeroVironment 社は少なくとも執筆者が参加した展示

会 2 日目以降は説明員を配置しておらず、DX KOREA の次の週に開催された KADEX での展示陣容と比較すると企業が投入する資源に大きな開きが認められた。また、DX KOREA に出展した企業は、KADEX にも重ねて出展するという企業が多く見られた。とはいえ、中小企業をはじめとする韓国防衛産業を支える多くの企業の展示が見られたほか、大韓貿易投資振興公社(KOTRA)や、韓国防衛産業学会 (KADIS)¹⁴などの防衛産業を支える公社や団体のブース出展が見られた。

DX KOREA は、4 日間すべてが商談を目的とした日程というわけではなく 9 月 25 日(水)から 27 日(金)までの 3 日間が「ビジネスデイ」、28 日(土)が週末であることもあり「パブリックデイ」に設定されていた。実際に、開催最終日の「パブリックデイ」には、子供連れの家族や友人同士で連れ立って会場を訪れている人々の姿も見られた。

② KADEX

KADEX は、正式名称を「韓国陸軍国際防衛産業展示会」といい、韓国中西部に位置する大田広域市郊外の忠清南道鷄龍台において 4 日間にわたって開催された。開催地の鷄龍台は、韓国軍の各軍種（陸海空軍）の司令部が置かれており、加えて、KADEX 公式サイトによると、韓国南部に集中する防衛産業にとってもおよそ中間地点のハブとなる場所であるとその意味合いが説明されている¹⁵。また、KADEX も DX KOREA と同様に、主に陸軍種を中心とした防衛産業展示会であり、「K-Defense を代表する兵器システムから効果的な戦闘のための電力支援システム（非兵器システム）まで、韓国の防衛産業製品を総合的に展示」するものであるとの位置づけがなされる¹⁶。

KADEX2024 では、主催者発表によると、500 社を超える出展者が計 1,600 のブースを出展したとされている。それらの出展者は、「①情報(Intelligence)：電子戦支援装置、監視レーダーなど」「②C3(Command Control and Communication)：指揮統制、通信」「③機動(Mobility)：戦闘/非戦闘車両」「④火力(Firepower)：小火器、火砲、各種弾薬」「⑤防護(Protection)：対空ミサイル、CBRN 防護」「⑥航空(Aviation)：無人/有人の各種航空機」「⑦支援(Support)：個人装備、戦闘糧食、衣食住等」「⑧将

来戦技術(Future Technologies)：AI、ロボティクス、ICT、無人化技術」の 8 つのテーマに分類された。

主要な出展企業としては、韓国からは現代ロテム、LIG、KIA、ハンファシステムズ、KAI、Poongsan(弾薬)などの企業が、韓国以外の海外からは、SAAB(スウェーデンの重工・防衛企業)や、AV(米国の UAV を主力とする企業)、WB グループ(ポーランド最大の民営防衛産業企業)などの出展が挙げられる。

KADEX でも、DX KOREA 同様、開催言語は韓国語がメインであるが、韓国の防衛産業界や、研究開発団体、技術動向に関するセミナーが併設された。

なお、KADEX は、2024 年に初めて開催された新たな展示会である。それ以前においては、陸上装備展示会は 1996 年の「ソウル航空宇宙ショー」に端を発する総合防衛展示会である「ソウル国際航空宇宙・防衛産業展示会(ADEX：奇数年にソウル軍用空港で隔年開催)」がその一角を担っていたほか、2014 年以降は前述の DX KOREA がその役割を担ってきた。報道によると、今まで陸軍種の装備展示会の役目を担ってきた DX KOREA の主催者団体と AROKA が開催の仕方をめぐって対立し、DX KOREA の後援を取り消したのちに、独自に立ち上げたものが KADEX であるという経緯があるとされる¹⁷。結局、2024 年は DX KOREA も AROKA の後援を維持した形では開催され、KADEX と並行して開催されるという形になったが、来年以降の韓国の陸軍種の防衛産業展示会の開催の在り方は未定であるとの見方もある¹⁸。さらに余談ではあるが、韓国では海軍種に関する装備展示会として、「国際海洋防衛産業展示会 (MADEX：奇数年にプサンで隔年開催)¹⁹」があり、陸・海・空軍の展示会がそれぞれ存在するかたちになっている【図 1】。これらの 1990 年代からの防衛産業展示会は韓国の国防力の近代化と輸出志向型産業の育成の志向と強く結びついている²⁰。

【図 1】 韓国の防衛装備品展示会一覧

軍種\年代	1990年代	2000年代	2024年
空	ソウル航空宇宙ショー(Seoul Airshow) 1996年初開催 (以降は奇数年開催)	ソウル国際航空宇宙・防衛産業展示会(ADEX) 2009年～ (奇数年開催)	
陸		DX KOREA 2014年初開催 (偶数年開催)	KADEX 2024年～ (偶数年開催)
海	国際海洋防衛産業展示会 (MADEX) 1998年～ (以降は奇数年開催)		

(出所) 前掲注の各装備展示会のサイトを基に執筆者作成。

※本図は各展示会の来歴を示すものであり横軸(年代)の長さの間隔は必ずしも正確ではない。

KADEX は、前述のとおり大田広域市郊外の忠清南道鷄龍台で行われたが、大田広域市まではソウル駅から韓国的高速鉄道である KTX を利用しておよそ 1 時間、そこから KADEX の運営が用意したバス等を利用して約 40 分の場所であった。鷄龍駅周辺も決して不便ではない町ではあったが、もともとイベント会場ではなく、軍の司令部として運用されている場所であること考えると、外国人が訪問するには決して便利とは言えないかもしれない。実際、執筆者も最初はスマートフォンを片手にかなりの手探りでの訪問となった。

KADEX は、開催地が軍の施設という土地の広さを生かし、現有装備品の屋外展示や走行展示がなされていた。屋外展示には、韓国陸軍の主要装備だけでなく、在韓米軍の陸上装備品（例えばペトリオットのミサイル発射機や M270 多連装ロケットシステムや M1135 NBCRV 等）が展示された。防衛産業関連の企業のブース展示は、普段は滑走路として運用されている場所に設置された巨大なテント【写真 3, 4】のなかで行われていた。1 ブース 10 分ほど話を聞きながら回ったとしても、1 日では回りきれない規模であった。

KADEX も必ずしも防衛産業に関する商談一辺倒のイベントというわけではなく子供向けの、宇宙開発に親しむための展示や、各軍種による体験コーナーが設けられていた。また、韓国空軍のアクロバットチームや陸軍の対戦車ヘリコプターによる飛行展示なども行われた。こうしたこともあり、開催期間中特に週末の 2 日間では、家族連れの参加が非常に多くみられ、前述の屋外展示を含めて、国民の防衛に関する知見の涵養の場としても機能しているように見えた【写真 5】。次回の KADEX は 2026 年 10 月に予定されている。



【写真 3】メイン展示場のテント



【写真 4】子供向け展示などが行われていたテント



【写真 5】K-9 自走砲等の屋外展示。

体験搭乗や記念撮影が行われていた。

3. 韓国防衛産業のトレンドー無人化・省人化と海外輸出・移転

前節で紹介した展示会の会場案内図及び出展者リスト【図 2、3、4】を見るだけでも、出展ブースの規模の大きさや出展企業が扱う商品の比重から、韓国の防衛産業を取り巻くおおよそのトレンドが読み取れよう。ここでは、さらに詳しく今回の展示会を通じて見えた韓国の防衛産業の「無人化・省人化」と「海外輸出・移転」の 2 つの論点に注目してそのトレンドを論じることとしたい。

①「無人化・省人化」

まず、「無人化・省人化」の動きについて取り上げる。韓国軍では、少子化による人員不足の深刻化の認識や北朝鮮からの脅威の高まりを背景に、戦場での無人化や省人化を目指した技術や装備品の導入が加速している²¹。本展示会からも、その傾向が顕著に見受けられた。「無人化・省人化」と一口に言っても、その目的や手段は多岐にわたる。その代表例として、無人航空機（UAV）および無人航空システム（UAS）の導入に注目したい。本展示会では、無人航空機そのものに関して多様な種類の展示が行われており、それに加えて、設計・開発・生産に関する防衛企業間のエコシステムが構築されつつある様子が確認された。

また、無人航空機に対抗するためのシステムとして、カウンターUAS（CUAS）も注目すべき技術である。本展示会では、企業規模の大小を問わず、多くの出展者が CUAS システムを主要な展示物として取り上げており、その重要性の高まりがうかがえる。以下では、これらの事例について具体的な展示内容を挙げながら詳しく見ていきたい。

まず、韓国の防衛企業の UAS への取り組みは幅広く、前掲の【写真 1】からも見て取れるように空軍種に対するソリューションである有人無人チームング（MUM-T）/ 協調戦闘機（Collaborative Combat Aircraft: CCA）²²（＝いずれも有人機と連携する無人航空機）の開発に韓国航空宇宙産業（Korea Aerospace Industries: KAI）や大韓航空（KAL-ASD）²³が様々な構想を提案しており、KAL-ASD の担当者によると、KUS-LW【写真 6】のような、そのうちのいくつかの UAS は 2025 年に試験を予定しているとのことであった。

また、韓国の UAS 産業においては、KAI や KAL-ASD のような大企業のみならず、ベンチャー企業の旺盛なアイデアを大企業の生産基盤や技術と結びつけることで製品化をしている例が見られた。その一例として、韓国のベンチャー企業である UAM Tech 社²⁴は、2022 年に設立された比較的新しい会社であるが、その主力製品として UI-5、UI-7、UI-9 と呼ばれる【写真 7】のような短距離離着陸が可能で偵察や自爆が可能な製品を有している。これらの製品は、設計は UAM Tech 社で行い、技術的に高度な部品であるシーカーやその他の工学的知見を大企業である KAL-ASD から受け取って製造を行っている UAM Tech 社の担当者は説明をしていた。この例からも、新たな製品の実現化と安定的な生産をベンチャー企

業と大企業が協業するモデルも見えてくるのではないだろうか。また、韓国の中小企業も含めた無人航空機産業の特徴として、機体の設計と製造は韓国で行い、光学カメラや合成開口レーダーなどのセンサーはイスラエルなどの海外製を導入する形態がよく見られた。



【写真 6】 KAL-ASD の KUS-LW 無人機



【写真 7】 UAM Tech 社の無人機

また、韓国陸軍の無人航空機の導入の動きに注目すると、その動きは構造的には人口減少に直面していることに起因するが²⁵、その他にも、韓国軍全体の近代化のビジョンのなかでの UAS 導入の流れや、より直近の動きでは北朝鮮の無人機によるソウル上空への侵入を許した事案を受けた CUAS 装備の導入の要請が大きいとされる²⁶。実際に、韓国陸軍が出展するブースへ赴くと、かなりのスペースを UAV/UAS の導入やその予定事例の紹介に割いており【写真 8、9】、韓国軍担当者によると、やはり UAS や CUAS 導入の予算が増額されたのは北朝鮮による 2022 年の無人機侵入事案以降であるとされた。韓国軍の UAS や CUAS に係る予算の推移は必ずしも公開されているわけではないが、2024 年 5 月に、韓国の国防革新委員会が、高度化している北朝鮮の無人機に対抗し、2026 年までの 2 年間で軍の「ドローン戦力」を 2 倍以上に増強させる方針を明らかにしていることからその姿勢が垣間見ることができる²⁷。

さらに、韓国の無人機導入の選考基準について韓国陸軍の担当者は「国産であるという要素は重要だが、UAV/ドローンは消耗品であり、価格や費用対効果が重要である」との旨指摘していた。その言葉の裏付けとして、先述の韓国陸軍による UAV 紹介ブースには基本的に韓国製の UAV のみが展示されていたものの、実際の UAV の導入検討事例には、価格競争力に優れるとされるポーランド製の自爆型ドローン「ウォーメイト【写真 10】」の導入が見られる²⁸。

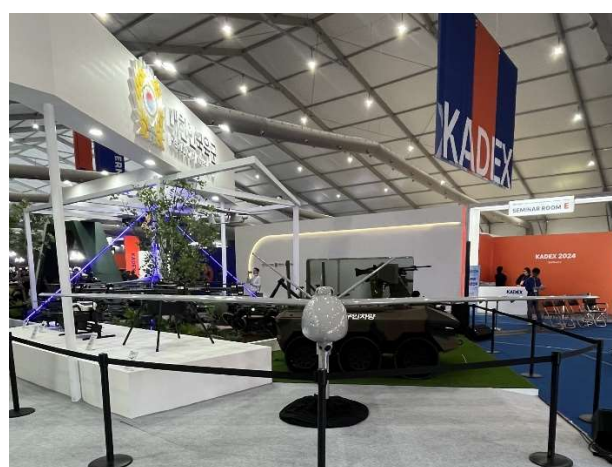
この「ウォーメイト」の製造会社はポーランドの防衛産業企業の WB グループであり、この会社は昨今話題となっている韓国の K-9 自走砲のポーランド側でのサブシステムの製造等の分担を請け負うカウンターパートである²⁹。「ウォーメイト」の導入は純粋にウクライナで使用されており迅速な調達が可能であるという純粋な製品の優位性があったとの見方もできるが、韓国政府当局者が、防衛装備品の移転

関係は韓国側が売るだけでは成り立たない関係であると発言している旨が報じられており³⁰、あえてポーランド製の UAV を導入したのは、両国の防衛産業間の相互関係の構築を念頭に置いたものであるとみられる³¹。さらに、同社のドローンが価格競争力にも優れている背景には、オフセット取引的な側面もあるのではないかと類推できる。このポーランドの WB グループの無人機購入の契約の締結は 2024 年 10 月 4 日に本稿で紹介した KADEX の場において行われた³²。

CUAS については、大企業のソリューションのほかに、中小企業やベンチャー企業による製品の研究・開発・製造が目立った【写真 11】。



【写真 8】韓国陸軍のブース



【写真 9】韓国陸軍が導入を検討する無人機



【写真 10】WB グループ社の「ウォーメイト」無人機
(出所 = 写真 10) Janes, 2024³³,



【写真 11】EBT 社の CUAS 装備展示

②「海外輸出・移転」

次に、「海外輸出・移転」の取り組みに関して、今回の展示会の主眼である陸上装備においては、上述のポーランドへのハンファ社の K-9 自走砲や、現代ロテム社の K-2 戦車の移転が注目されるが、その他にもオーストラリアへのハンファ社のレッドバック歩兵戦闘車 (IFV) 129 両の納入契約や、現代ロテム社の K808 装輪装甲車 30 両のペルーへの輸出契約など着実に実績を重ねているといえる。

こうした輸出の成功は、相手国のニーズの把握や、韓国防衛事業庁や大韓貿易投資振興公社など行政・官側の支援制度やトップセールスによるものであるとされるが³⁴、これに加えて防衛産業企業による移転先の相手側のニーズに応える設計変更等も重要な論点となる。例えば、先述のハンファ社は、マレーシアやアラブ首長国連邦でテストを行った TIGON 多用途装輪装甲車両を、当初の 6×6 の車輪構成から 8×8 の構成への転換の提案を行ったりしている。また、先述のオーストラリアへ輸出されるレッドバック IFV もオーストラリアのニーズに応えたセンサーや兵装が搭載されるほか、搭載される機関砲の口径も韓国軍のものから変更されている【写真 12】。

ここで疑問となるのが、近年輸出で成功しているとみなされる韓国防衛産業企業は、装備開発の段階において、どの程度最初から移転を念頭においているのかという点である。この点について、ハンファの担当者の 1 人に質問したところ「海外に物が売れるのは、韓国軍への納入と使用実績があるが故であり、海外に販売するものについては現状では基本的に韓国軍に納入しているモデルを購入国が希望するように変形させたり改良したりするのみである。そのため、まずは韓国軍に役立つような製品を作ることがよいと考えている。こうした意見が社内でも多数派であるといえる。ただし、社内全員が同じ発想であるかといえばそうではない考え（＝輸出優先の開発）のものもやはりいる。」との回答であった。このハンファ社の担当者の考えは、韓国主要メーカーの国内と海外での売上比率が 8：1 ないしは 7：1 であり、まだ国内向け売り上げが依然として大半を占めるという事実からも合理的な考えであるといえるだろう。また、担当者が強調したように、自国軍による採用実績が海外への売り込みの強みになるという点も重要な論点であるといえよう。



【写真 12】ハンファ社製レッドバック IFV

4. おわりに

ここまで見てきたように、本稿では韓国防衛産業展示会という切り口から、そもそも防衛産業展示会とは何であり、その意義は何かについて整理し、韓国の防衛産業を取り巻くトレンドについて紹介した。

防衛産業展示会では、防衛を取り巻く様々な課題についてのソリューションが提示されたり、その国の防衛産業を取り巻く現状が如実に表れたりし、さらには現場の声を聞き問題意識を共有できる場ともなっていた。

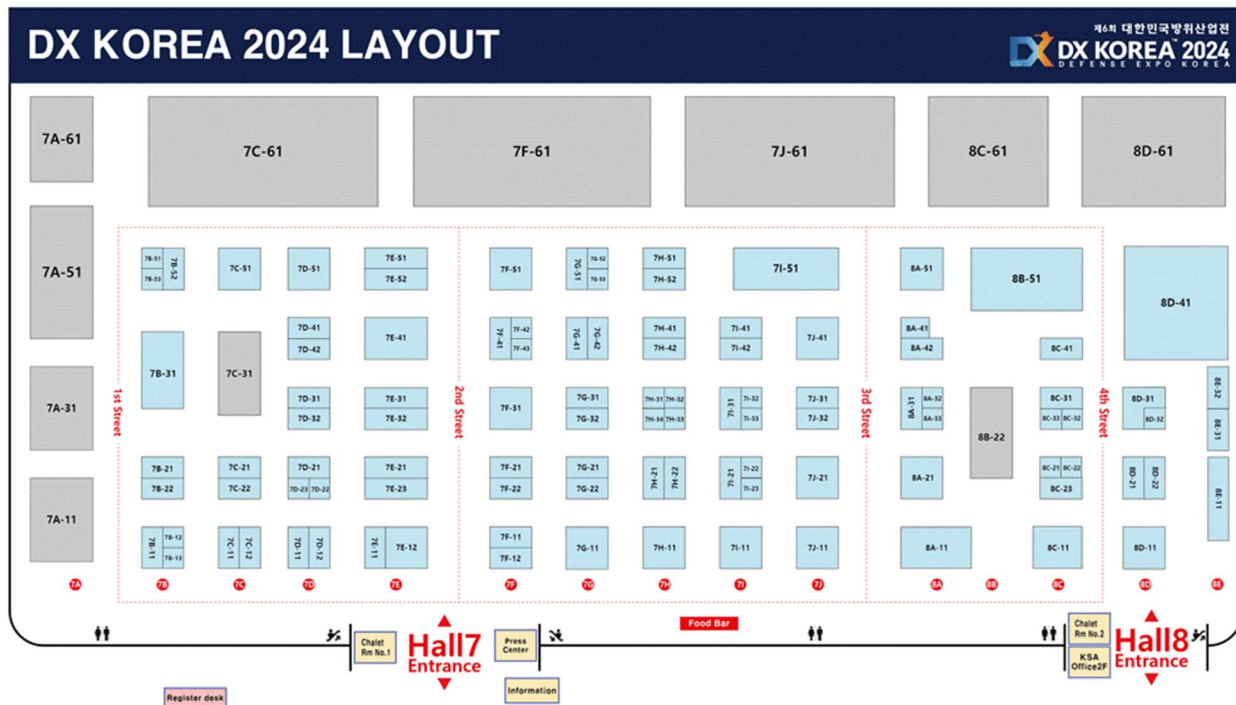
本稿では特に、韓国政府・軍および防衛産業が注力する「無人化・省人化」「海外輸出・移転」の2つのトレンドにつき、特に今回調査した展示会から読み取れるものを概観した。

また、【図1】で整理したとおり、韓国国内における防衛産業展示会は、1990年代の中葉に端を発し、国際的な展開への訴求力を高めることが念頭にあった³⁵。実際の韓国の防衛装備輸出が花開くのは盧武鉉政権期、2006年の防衛事業庁の発足が契機となるとされるが³⁶、こうした展示会が果たした役割も一定程度認められるだろう。韓国が防衛装備輸出国として注目される現在でも韓国国内で開催される防衛産業展示会は、「防衛外交³⁷」の重要な場となっていた。その証左として、KADEXの開会式には、我が国を含む世界48か国からの代表団が参加し、会場の視察を行っていたほか、カザフスタンやインドが国としてのブースを出展していた³⁸。展示会を行えば、必ずしも「防衛外交」やとりわけ防衛装備の輸出が促進されるわけではないが、数年に1度、各国からの代表団や防衛産業関係者が集う「機会の窓」としての機能は少なくないだろう。

最後に、本稿で取り上げた企業や事例はそれぞれの防衛産業展示会のほんのごく一部であり、それは展示ブースの全数がDX KOREAとKADEX合わせて1,553カ所であることから明瞭である。また、同じ展示会であっても観る人それぞれに違った論点が見えるはずである。「百聞は一見に如かず」とのことわざの通り、国内外の様々な展示会に足を運んでみられてはいかがだろうか。

(2025年1月9日脱稿)

【図2】 DX KOREA 会場図



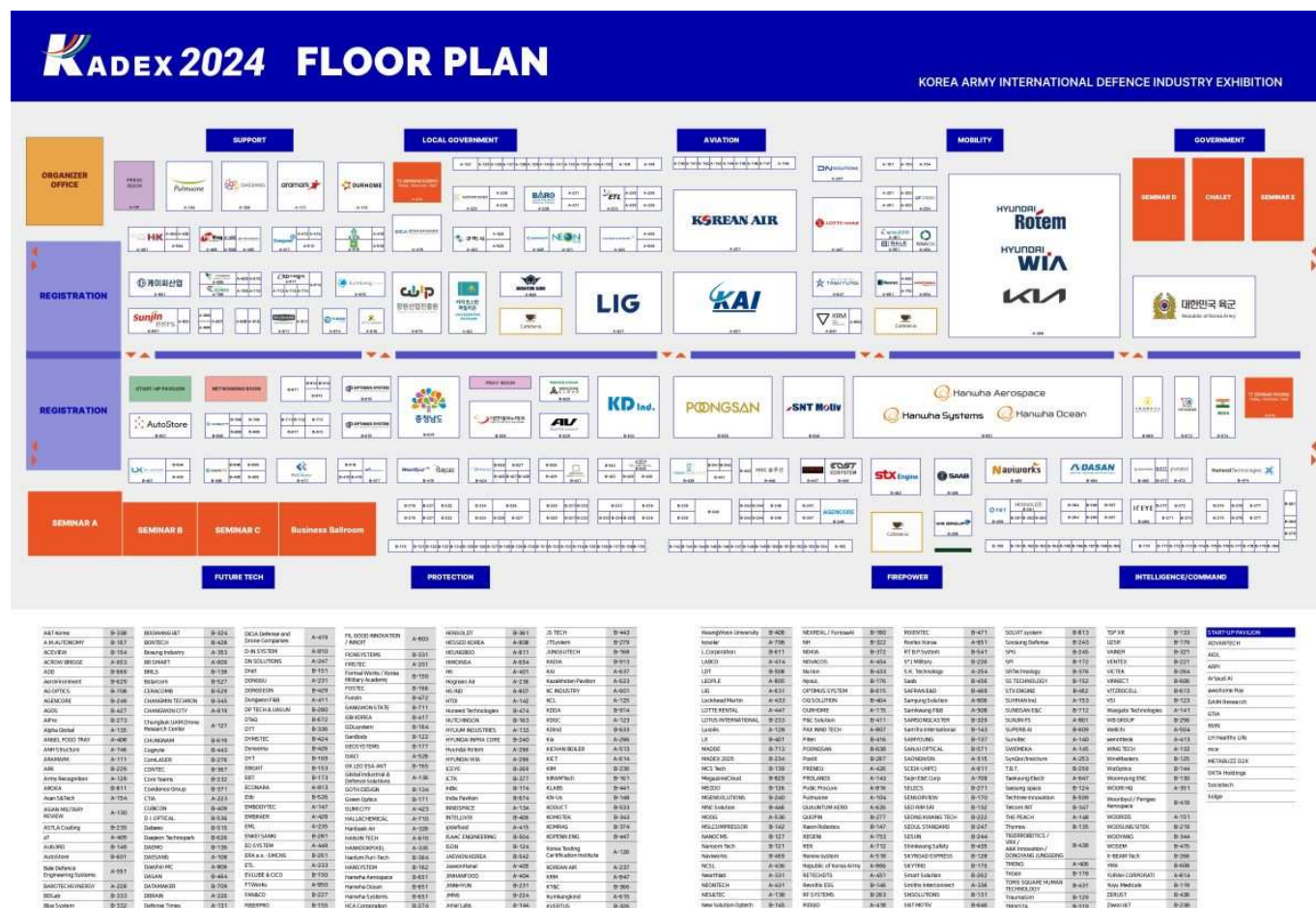
(出所) DX KOREA2024 公式サイトより引用 (<https://www.dxkorea.org/en/index.asp>)。

【図3】 DX KOREA 出展企業一覧

Exhibitor List							
No.	Company Name	No.	Company Name	No.	Company Name	No.	Company Name
7B-12	326 Patriots And Veterans Research Institute	7I-51	Gwangjang Innotech Co., Ltd	7F-21	KRM	7D-22	SMCNS
7D-51	A&T Korea	7E-32	Hanmin International Co., Ltd.	8D-11	KSO	7J-32	SOLTECH INFONET INC.
7C-21	A.I.Matics Inc.	7G-11	HESSED KOREA Inc.	8C-33	LANCO Group GmbH	7I-11	SOOSUNG DEFENSE INDUSTRIES LTD.
7I-23	Adelpia Lab. Inc.	7I-51	HEZ Co., Ltd.	8A-11	LEONARDO	8D-31	SUNDORIDRONE Inc.
8B-51	Aerovironment	7I-42	HyperAccel	7D-12	LOTUS INTERNATIONAL CO.,LTD	7I-51	SY BASSAR Co., Ltd
7B-51	AG Optics Co.,Ltd.	8A-31	Hytec Inter Korea Co., Ltd.	7H-22	Lumax Aerospace Corp.	7C-12	Syncron Co., Ltd.
7E-12	AMPHENOL	8C-32	ICS TECHNOLOGIES	7H-31	Luxolis	7J-41	Testonic Co., Ltd
8D-22	ASSETTA Inc.	7F-31	INTEROCEAN Co., Ltd.	7C-11	Machinery Financial Cooperative	8C-11	Transmobile Ltd.
7F-11	B&B CORPORATION	8E-31	Intosky	7G-32	MAKE THINGS	7F-51	UWT
7H-21	BARO AI	8A-33	ITOPP	7G-22	MI RAE DEVELOPMENT CABLE INC.	7C-22	VENTEX
8A-32	Blucher GmbH	7F-43	J.H international	7D-31	MICRO DISPLAY INC.,	7E-11	Vorasky
7F-42	Bo Lyung Engineering Co.	7E-23	JCA Autonomous Co., Ltd.	8C-41	Ministry of Patriots and Veterans Affairs	7D-23	WIREMASTERS
7H-51	Braintech Co., Ltd.	7D-42	JIKYUNG SOLUTECH	7I-31	MSLCOMPRESSOR Co.,Ltd	7I-51	WITHINNOTECH Co., Ltd.
7G-31	Bstarcom	7I-51	JIN&HYUN SECURITY Corp.	8C-31	MYUTRON INC.	7G-42	wmfc
8A-41	CBOL Copporation	7H-32	JINWOOLTEC	7J-11	NINANO COMPANY INC.	7H-52	ZEON GREEN
7J-21	Cheongju University Industry-Academic Cooperation Group	7E-21	Joowon Industrial.	8C-21	Orbit Communication System	7B-31	Defense Producers Association
7D-11	COVIS	8A-42	JOWO SYSTEM KOREA	7J-31	PANOS CO.,LTD.	8E-11	PRESS
7G-51	CSGLOBIZ CO., LTD	7E-51	K2 KOREA Co.,Ltd	7H-42	Parkor Korea Indus Co., Ltd	7F-61	Opening ceremony / Seminar
7B-53	defens	7E-31	KAPYUNGTECHNOLOGY	7D-21	PITEN INC.	8C-61	Pitchday
7B-52	Defense Producers Association	8D-41	KDIA	7F-22	PSIONdsp Corp.	7A-31	VIP & BUYER LOUNGE
8A-21	DevCra Corp.	7C-51	KINETIX	7H-41	Ramjetpower	7A-11	Organizing Committee Lounge
7E-41	Din System Co., Ltd.	7G-52	K-NETZ	7I-22	RF Systems Co., Ltd.	7C-31	Business Center
8E-32	DRONE DIVISION	7I-32	KOMOTEX CO.LTD	8C-23	ROHDE & SCHWARZ GmbH & Co. KG	8B-22	Business Center
7I-21	DTT	7E-52	Korea Association of Defense Industry Studies	7H-34	ROKADI INC.	7C-61	Cafeteria
8D-21	Dymstec Co., Ltd.	7I-51	korea CMF Co., Ltd.	7H-33	SamTra International	7J-61	Korean War Photo Exhibition
7I-51	ELECTRINE Inc.	7B-22	Korea Defense Guarantee Cooperative	7F-12	SANJU OPTICAL	7A-51	Rest Area for Exhibitors
7G-53	Epoch Media Korea Inc.	7B-21	KOREA IMPORTERS ASSOCIATION	7F-41	SBB TECH	8D-61	Logistics Support Center
8C-22	Exail	7D-32	Korea Testing Certification Institute	7G-21	SDT Inc.	7A-61	Meeting Room
7I-33	FIBERPRO, Inc	7B-11	KOREA TOURISM ORGANIZATION	7D-41	SE KOREA		
8D-32	Gainest	7B-13	KOTRA	7G-41	SITEC		
7I-51	GRAPHENE WORLD Co., Ltd	7H-11	KPC Metal Co., Ltd.	7I-41	SJPrecision Co.,		

(出所) DX KOREA2024 公式サイトより引用 (<https://www.dxkorea.org/en/index.asp>)。

【図4】 KADEX 会場図



(出所) KADEX2024 公式サイトより引用 (<https://kadexaroka.com/eng/>)。

- ¹ 日本において 2 年に 1 度開催される大規模防衛・安全保障総合展示会。以下を参照：DSEI Japan 公式サイト (<https://www.dsei-japan.com/jp>)。
- ² RISON は防災等の危機管理関連産業、SEECAT はテロ対策装備を主に取り扱う国内では最大規模の展示会であり年に 1 度開催。以下を参照：RISON/SEECAT 公式サイト (<https://www.kikikanri.biz/index.html>; <https://www.seecat.biz/>)。
- ³ EUROSATORY, (Retrieved on December 18, 2024, from <https://www.eurosatory.com/en/>).
- ⁴ 例えば、国際的な展示会・催物のリストアップを行うサイトである「Events Eye(https://www.eventseye.com/fairs/dst1_trade-shows_january_1_defense-armament.html)」や「Defense Advancement(<https://www.defenseadvancement.com/events/>)」、「日本貿易振興機構 (<https://www.jetro.go.jp/en/database/j-messe/industry/living/013/>)」のサイトなどが参考になる。
- ⁵ AUSA 2024 Annual Meeting and Exposition, (Retrieved on December 18, 2024, from <https://meetings.ausa.org/annual/2024/index.cfm>).
- ⁶ 日本貿易振興機構「Farnborough International Airshow 2024」世界の見本市・展示会情報 (J-messe) (最終閲覧日：2024 年 10 月 14 日 <https://www.jetro.go.jp/j-messe/tradefair/detail/126421>)。
- ⁷ United Arab Emirates Ministry of Defence, Post Show Report, August 1, 2024, (Retrieved on December 1, 2024 from

https://www.idexuae.ae/app/uploads/2024/08/1.-IDEX23_Post-Show-Report3.pdf).

⁸ Seoul ADEX 2023, Post-show Report, n.d., (Retrieved on December 1, 2024, from https://www.seouladex.com/_inc/downFileData.php?id=143).

⁹ ただし、日本語が堪能な説明員の配置は、日本の政府当局や企業を主たる対象として意識していたというわけではなく、韓国において英語に通曉している人材は相対的に言語学習への関心が高く、その過程で日本語を学習した、という者が多いという背景があるとみられる。

¹⁰ DX KOREA 2024, (Retrieved on December 1, 2024, from <https://www.dxkorea.org/en/index.asp>).

¹¹ OPINION Defense Exhibition DX KOREA 2024 opens, *Global Defense & Aerospace Post*, September 26, 2024, <https://www.globaldefenseaerospacepost.com/news/articleView.html?idxno=3069>.

¹² “DX KOREA 2024 provides SMEs marketing opportunities”, *Global Defense & Aerospace Post*, September 30, 2024, <https://www.globaldefenseaerospacepost.com/news/articleView.html?idxno=3100>.

¹³ DX KOREA organizing committee. Upcoming Exhibition by DX KOREA 2024, July 10, 2024, (Retrieved on December 1, 2024, from https://www.dxkorea.org/en/media/notice.asp?B_CODE=TB_NOTICE_EN_2018&IDX=63&gotopage=1&mode=view&search_string=).

¹⁴ KADIS は名称として「学会」を名乗るが、いわゆる学術団体というわけではなく、業界団体に近い性格を持つとされる。

¹⁵ KADIS, Why Gyeryongdae, n.d., (Retrieved on December 5, 2024, from <https://kadexaroka.com/eng/why-gyeryongdae/>).

¹⁶ KADIS. Overview, n.d., (Retrieved on December 5, 2024, from <https://kadexaroka.com/eng/about/overview/>).

¹⁷ 二つに分かれた地上軍防衛展示、SE Daily、2024 年 9 月 26 日、(原文韓国語、最終閲覧日 2024 年 12 月 5 日 : <https://www.sedaily.com/NewsView/2DEFXX2ZG1>).

¹⁸ 「半分の地上兵器展示会」DX KOREA 2024 閉幕...「2026 年は統合展示を」、SPN、2024 年 9 月 29 日、(原文韓国語、最終閲覧日 2024 年 12 月 5 日 : https://www.spnews.co.kr/news/articleView.html?idxno=85713&utm_source=chatgpt.com).

¹⁹ 次回は 2025 年 5 月 28 日から 31 日まで、釜山の BEXCO で開催予定。以下を参照：MADEX 公式サイト (https://m.madex.co.kr/m/eng/index.asp?B_CODE=TB_NOTICE_EN).

²⁰ Chuljung, Park. “The South Korean Defence Industry”, Canadian Forces College, May 12, 2014. <https://www.cfc.forces.gc.ca/259/290/301/305/park.pdf>

²¹ 伊藤弘太郎「第 7 章 韓国——ドローン導入を加速化させる背景と実際」(古谷知之、伊藤弘太郎、佐藤丙午『ドローンが変える戦争』勁草書房、2024 年)。

²² 韓国における防衛分野の大手航空宇宙企業である KAI と KAL-ASD (大韓航空) は、有人機に随伴する無人機という同一の概念を指す際にそれぞれ KAI は MUM-T、KAL-ASD は CCA という単語を用いており、この差も興味深い点ではある。米空軍では、2010 年代ごろから MUM-T がジャーゴンとして用いられていたが、近年では CCA という呼称がより多く見られる傾向にある。

²³ 大韓航空は韓国のフラッグキャリアである民間航空会社として知られるが、1976 年、航空宇宙部門に「製造事業部」を設立して以降、既存の航空機整備や開発等を担当する防衛産業企業としての側面を持つ。現在、航空宇宙部門は Korean Air Aerospace Division (KAL-ASD) と呼称される。

²⁴ UAM Tech, Leading the Future of Aerospace Innovation. (Retrieved on December 25, 2024, from <https://www.uamtech.kr/>)

²⁵ 伊藤弘太郎「第 7 章 韓国——ドローン導入を加速化させる背景と実際」、2024 年、121 頁。

²⁶ 韓国大統領、北朝鮮機侵入対応を批判 ドローン専門部隊創設に意欲、ロイター、2022 年 12 月 28 日 (最終閲覧日 2024 年 12 月 8 日 : <https://jp.reuters.com/article/southkorea-northkorea-idJPKBN2TB03R/>).

²⁷ 金泰均「北朝鮮無人機に対抗するドローン 26 年までに倍増へ＝韓国」聯合ニュース (最終閲覧日 2024 年 12 月 8 日 : <https://jp.yna.co.kr/view/AJP20240502001400882>).

²⁸ 韓国軍北韓に対応しポーランド製の自爆型ドローン導入へ、KBS News、2024 年 10 月 4 日 (最終閲覧日 2024 年 12 月 10

日：https://rki.kbs.co.kr/service/news_view.htm?Seq_Code=88639&lang=j）。

²⁹ “Poland Builds Europe’s Largest Mobile Artillery Forces with Record K9 Howitzers Acquisitions. “, *Army Recognition*, November 13, 2024, <https://armyrecognition.com/focus-analysis-conflicts/army/conflicts-in-the-world/russia-ukraine-war-2022/poland-builds-europes-largest-mobile-artillery-force-with-record-k9-acquisitions>

³⁰ “South Korea may buy drones from Poland to expand defence ties, report says”, *Reuters*, July 8, 2024, <https://www.reuters.com/business/aerospace-defense/south-korea-may-buy-drones-poland-expand-arms-relationship-report-says-2024-07-08/>.

³¹ 韓国、ポーランドから無人機購入検討 防衛関係拡大で＝東亜日報、ロイター、2024 年 7 月 8 日（最終閲覧日 2024 年 12 月 11 日：https://jp.reuters.com/world/korea/IK4WXKEDVVOB5H34EKZZDCGPFQ-2024-07-08/#:~:text=Wider%20Image%20%E3%83%93%E3%83%87%E3%82%AA-,%E9%9F%93%E5%9B%BD%E3%80%81%E3%83%9D%E3%83%BC%E3%83%A9%E3%83%B3%E3%83%89%E3%81%8B%E3%82%89%E7%84%A1%E4%BA%BA%E6%A9%9F%E8%B3%BC%E5%85%A5%E6%A4%9C%E8%A8%8E%20%E9%98%B2%E8%A1%9B,%E6%8B%A1%E5%A4%A7%E3%81%A7%EF%BC%9D%E6%9D%B1%E4%BA%9C%E6%97%A5%E5%A0%B1&text=%5B%E3%82%BD%E3%82%A6%E3%83%AB%20%EF%BC%98%E6%97%A5%20%E3%83%AD%E3%82%A4%E3%82%BF%E3%83%BC%5D%20%2D,%E3%81%AE%E8%A9%B1%E3%81%A8%E3%81%97%E3%81%A6%E4%BC%9D%E3%81%88%E3%81%9F%E3%80%82)）。

³² Hyo-jin, Lee. S. Korea seals deal with Poland to purchase suicide drones, *The Korea Times*, October 2, 2024, Retrieved on December 13, 2024, from https://www.koreatimes.co.kr/www/nation/2024/12/113_383505.html.

³³ Majumdar, Oishee. “KADEX 2024: South Korea to acquire loitering munitions from WB Group”, *Janes*, October 3, 2024.

³⁴ 伊藤弘太郎「韓国の「国防外交」——「国家生存」から「多様な国益実現」の手段へ」『日本の防衛外交研究事業 国別事例調査報告書シリーズ』6、笹川平和財団、2020 年

³⁵ “Seoul Air Show ’96: South Korean Aerospace Aims High”, *Aviation Week*, September 9, 1996。

³⁶ 伊藤弘太郎「韓国の防衛装備品輸出拡大への過程——1990 年前後の輸出阻害要因を中心に」『フェローシップ報告書』公益財団法人日韓文化交流基金、2018 年。

³⁷ 「防衛外交」の概念については、渡部 恒雄、西田 一平太（編）『防衛外交とは何か～平時における軍事力の役割』勁草書房、2021 年に詳しい。

³⁸ KADDEX 2024, n.d., (Retrieved on December 21, 2024, from <https://kadexaroka.com/eng/>)

PROFILE

清岡 克吉

理論研究部 社会・経済研究室 研究室

専門分野：防衛産業・装備政策、技術と安全保障、軍備管理

本欄における見解は、防衛研究所を代表するものではありません。
NIDS コメンタリーに関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。
ただし記事の無断転載・複製はお断りします。

防衛研究所企画部企画調整課

直 通：03-3260-3011

代 表：03-3268-3111（内線 29177）

防衛研究所 Web サイト：www.nids.mod.go.jp